

『楽しさ』を実感できる学びを

大津市教育センター所長 堀部 正明

★冒険

中学1年生の夏休み、私は目の前に広がるこの琵琶湖を一周してみたいという思いにかられました。そこで新しく友達になった3人で自転車ツーリングを計画することになったのです。地図を広げ、ルートや宿泊地を探しました。当時はビワイチという言葉もなく、湖周道路も整備されていません。私たちはなるべく安全で、琵琶湖の近くを通る眺めの良い道を選びました。テントや飯盒などキャンプに必要なものは役場に出向いて調達。テントの立て方やご飯の炊き方もそこで教えてもらいました。「人に聞けば何とかなるものだ」と思いました。

自転車の荷台に荷物をくくりつけ、意気揚々と出発！琵琶湖沿いに走ると松林が続く、何とも気持ちが良い。道が分からなくなると近くにいる人に地図を見せ、道を尋ねました。キャンプ地には予定より早く到着し、さっそく夕食づくり。かまどを作り、枝を集めてマッチで火をつけ、飯盒でご飯を炊きました。おかしは缶詰のほか、袋のまま湯煎して食べるハンバーグ。

1日目の夜のことです。テントの中で寝ていると懐中電灯を持った男性が訪ねて来てびっくり。小学校の時の担任の先生でした。今から40年以上も前の話です。いろいろあって途中で引き返すことになった冒険旅でしたが、未知なことへ挑み、探究したその時のわくわく感と「願えば何とかできる」という自信が色あせることなく、今も私の心に輝いています。

★子どもの心に火をつける

教育長は、よく「子どもたちの笑顔をどのように輝かせるのか」と問われます。その一つの答えが前述したような子どもの主体的な学びを通して得られた「楽しさ」の実現にあるのだと思います。

普通の教師は、言わなければならないことを喋る。

よい教師は、わかりやすいように解説する。

優れた教師は、自らやってみせる。

そして、本当に偉大な教師というのは、『子どもの心に火をつける』

(ウィリアム・ウォード)

私たちは子どもたちの心に火をつけて、真の学びの楽しさを実感させられるよう、授業改善に向けて学び続けなければなりません。

参考文献…国語の楽しさ、学びの楽しさって何だろう(文教大学教授 藤森裕治)

イラスト…坂本幼稚園 木村勇基

★楽しさとおもしろさ

子どもたちが、わくわくした気持ちで学習に臨み、主体的に課題解決に向け、取り組んでくれたらこんなにうれしいことはありません。

子どもが「今日の授業はおもしろかった。」と言えば、正直うれしいです。ですから、私が担任の時には、子どもたちの興味を引き付けるおもしろい教材はないかと探したり、授業の流れを考えたりしたものです。身を乗り出して課題に取り組み、もっとやりたいと意欲的に学ぶ姿が見られた時は、「やった。」と思いました。ところが、授業後に満足そうな時もあるれば、そうでない時もありました。「おもしろい」の対義語は「つまらない」。そう、つまらなそうな顔をしているのです。おもしろい授業を受けたいという受け身の学びの場合、そのような子どもの反応になるのかもしれない。主体的な学びに向かうためのめあてや発問の吟味がおろそかになっていたのです。

一方、「楽しかった」という感覚は、どんな時に生まれるのでしょうか。それは、自らが主体となって何かを行ったときに感じるもの。つまり、自分で考え、試行錯誤しながら何かをやり遂げ、充実感を味わったときに「楽しかった」という感覚になるのではないのでしょうか。「楽しい」の対義語は「苦しい」です。ですから、「楽しさ」を求めるとき、多かれ少なかれ「苦しさ」ともなうこともあるでしょう。まるで山登りの話みたいですが、ゴールを目指して、子どもたちが能動的にいろいろな方法で課題に挑んでいくような学びをめざしていきたいものです。



研修事業

教職員が学び合いを深めるため、同じステージでの「集合研修」を開催しています。

初任者研修

(7, 8月には幼稚園新規採用教員7名と共に合同研修を実施します。)

今年度の受講者は、小学校35名、中学校21名です。

この時期は、初任者にとっては初めてのことで、一人で悩みを抱え込みやすい時です。そのため、4月・5月は初任者にとって最も必要な研修内容を精選し、また、初任者同士の同期のつながりを深められるようグループで交流する時間を大切にしながら実施しています。



受講後の振り返りより

・ICTを使う際、児童にとって必要な場面であるか、使うことでどのような効果があるかを吟味したうえで活用していきたいです。また、学校で取り組む仕事の中で、常に情報を正しく扱う意識を持つようにしたいと思います。

・敬語の正しい使い方や、社会人として身につけておくべきルールやマナーについて学びました。演習を通して、自分が今できること、自分に足りないものを知ることができました。社会人(教師)であること、常に周りから見られているということを自覚し、責任を持って取り組んでいきたいと思っています。

教職2年次研修

[同時双方向型オンライン研修]

生徒指導に関する研修を行いました。グループで、イラストを見て、考えられる生徒指導上の問題点を話し合ったり、「居場所づくり」と「絆づくり」について考えたり、積極的に意見を交流していました。

受講後の振り返りより

・学校での子どもたちの様子を振り返ってみると、いじめに発展するかもしれないと感じる場面は少なくありません。だからこそ、子どもたちの様子をよく観察し、子どもたちと普段からコミュニケーションをとっておくことで少しの変化に気付けるようになっていきたいと思います。また、一人ではなく教員全体で対応するためにも、日常的な情報共有も大切だと感じました。

・教師が子ども同士を繋げようとするのではなく、子どもたちが自ら絆を築くということをしっかりと心に刻んでいく必要があると思います。また、適度に距離を保ちつつも、アンテナをはり、子どもの関係性や異変にすぐに気が付けるように努めたいです。

教職6年次研修

オンデマンド型オンライン研修で服務に関する研修を、集合研修で生徒指導に関する研修を実施しました。オンデマンド型研修で各自が学んできたことを集合研修の際に交流することで、受け身にならずに学びを深めることができました。また、グループで交流する時間を多く取り、自身の経験を踏まえながら他校の先生と意見を交わすことで、児童・生徒への適切な対応を学びました。



受講後の振り返りより

- ・改めて日々の活動を見直し、子どもたちが、自身で考え、決断し、実行できることを増やしていきたいと思いました。そのために、日ごろの小さなことから自分たちで決定できるよう声かけをしていきたいと思います。
- ・問題があったときに動くのではなく、挨拶や対話を通して問題行動を防げるよう、変化に気付くようにしていきたいです。子どもたちへの声かけも、子どもの声を一度受け取って共感できるよう心がける必要があると思います。子どもの様々な状況を想定しておき、週末の前の連絡を意識したいです。

中堅教諭等資質向上研修

[同時双方向型オンライン研修]

服務と関係法規の研修を実施しました。グループ協議を行ったり、受講生の発表の時間を取ったり、オンラインでも主体的に学べるようにしました。意見交流を行うことで他の教育公務員としての職責を再確認することができました。

受講後の振り返りより

- ・不祥事を起こさないために、法律や組織の決まりをまずは十分理解するところから始め、理解したことを生かせるよう、仕事環境を整えていく。不祥事を起こすと、想定以上の人たちへの苦労や不信感につながることを考えなければならないと感じた。
- ・職員室の雰囲気、同僚との良い関係を築くことが組織対応や様々なリスクマネジメントにつながると思います。そうでないと、自分で抱え込んでしまったり、周りの先生の困っていることにも気付いたりできないと思います。いろいろな先生とコミュニケーションをとりながら、働いていきます。

教科書展示会を開催

今年度採択の対象となる中学校の教科書をはじめ、小学校・高等学校の教科書も展示します。ぜひ、閲覧ください。

日時 : 6月4日(火)～6月29日(土) 9:00～16:30
※ただし、期間中の日曜日・月曜日は除く。

場所 : 教育センター 第4研修室(生涯学習センター4階)

どんな教科書が採択されようとしているのか、どうぞお確かめください。

ちょっとステキなひと時



「心を開くあいさつ」

大津市教育センターのある大津市生涯学習センターには、大津市科学館があり、校外学習や園外保育にも施設を利用してもらっています。そんな中、気持ちのよい声で、自分から地域の方やすれ違った人にあいさつをする幼稚園の5歳児の姿がありました。

先生をはじめとする大人のモデルを通して、心地よい生活に必要な態度が育まれていました。

貸出図書紹介

『子どもを伸ばす言葉』

実は否定している言葉』



天野 ひかり 著

ディスカヴァー トウエンティワン 発行

日々子どもたちと向き合う中で、言葉かけに困ったことはありませんか。タイトルにもあるとおり、よかれと思って伝えた言葉でも、子どもの視点に立つと、実は否定されていたと感じる言葉もあるようです。子どもの自己肯定感を高めるために、褒めることが大事ですが、褒める言葉かけ一つでも、全然違う受け取り方になってしまうことも…。

児童・生徒への言葉かけはどうでしょうか。子育てをテーマにした著書ではありますが、学校現場でも使えるヒントがたくさんある学びの多い一冊です。

教育センター図書をご活用ください

教育センターでは、授業づくりや園児・児童・生徒支援に役立つ図書を貸し出しています。

センターに研修等で来所の際、ぜひご覧ください。また貸出可能か来所前にお問い合わせいただくとスムーズです。

※詳細は教育センター《TEL077-522-1910》まで。

図書の借り方・返し方

- ① 図書貸出簿に必要事項を記入
- ② 図書貸出メモに「日付」「冊数」「図書名」「返却予定日」を記入
貸し出し図書と一緒に保管
- ③ 返却予定日までに来所にて返却
図書貸出簿に返却日を記入

大津市教育センター 事務分担

【所長】	堀部 正明
【指導主事】	佐志原 嘉彦
【指導主事】	米平 有里
【指導主事】	小川 敦士
【主査】	松尾 誠史
【会計年度職員】	梅井 俊仁
【会計年度職員】	橋詰 幸喜
【会計年度職員】	小林 典也
【会計年度職員】	石田 博士
【会計年度職員】	山内 小百合

教育センターの総括、管理グループの総括、教員研修計画に関すること
研修グループの総括、ステージ研修、職務研修、スキルアップ研修、委託研修等に関すること
ステージ研修、職務研修、スキルアップ研修、委託研修等、技術・家庭科作品展等に関すること
研究グループの総括、教科等領域別研究会運営、科学作品展等に関すること
幼稚園教員研修、特別支援教育研修、学校園教育研究委員会等に関すること
若手教員育成学校園訪問、生涯学習センター・教育センター貸室業務に関すること
若手教員育成学校園訪問、「わたしたちの大津」編集委員会等に関すること
若手教員育成学校園訪問、文献等受付・整理・回覧、Web ページに関すること
若手教員育成学校園訪問、教科書センター・教科書展示会等に関すること
管理事務の実務に関すること

＜来館時の注意＞

『大津市生涯学習センター』はたくさんの市民の方が利用される複合施設です。館内の施設は、教職員の研修や研究会だけでなく、一般市民のみなさんの生涯学習活動等に多く利用されています。

来館の際は公共交通機関を利用し、公共の場でのマナーを守ってください。